

会いたい聞かせて

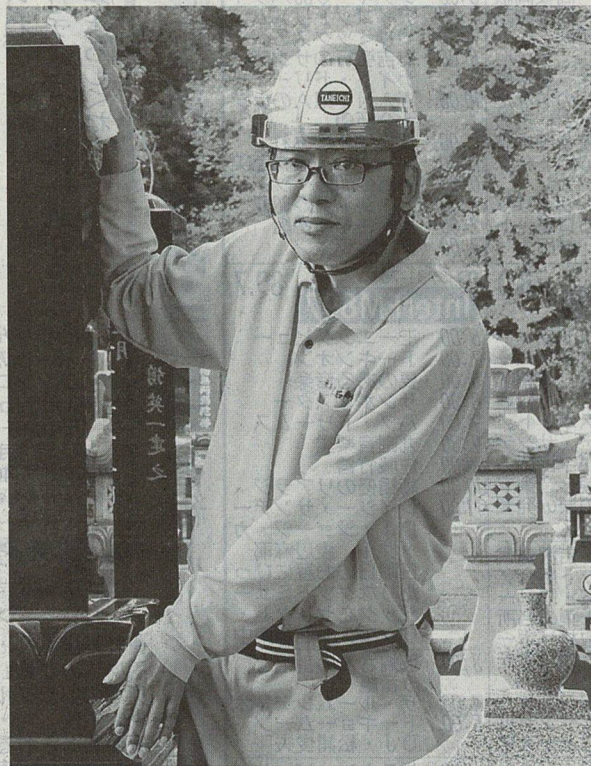
墓石美しく先祖敬う

ライフスタイルの変化と共に、先祖の供養のあり方も多様化し始めている。病気や高齢化、遠方に住んでいるなどの理由で墓の管理が難しい人に代わり、墓参りや清掃を代行するサービスの需要も高まってきた。小山市の墓石と石材を清掃、コーティングをする「種市塗石商会」の代表、新田貢司さん(47)は東日本大震災で故郷の岩手県が被災したことを契機に、この業界に足を踏み入れた。新田さんに仕事にかける思いを聞いた。

——仕事を始めたきっかけを教えてください。

◆2007年に大工だった父が仕事中的事故で59歳で亡くなりました。あまりにも突然で、一つも親孝行できなかったことを悔やみました。その4年後の11年には震災が起き、古里の岩手にも大きな被害が出ました。当時、働いていた小山市の建設会社では、復興支援のために宮城県多賀城市や石巻市などの被災地に人を派遣していましたが、私は行く機会に恵まれず、もどかしい思いをしました。亡くなった方のために何かしたいという思いか

種市塗石商会代表 新田貢司さん(47)



ら、18年に墓石や石材をコーティングする会社を立ち上げました。

【渡辺佳奈子】

一基でも多くの墓石をきれいにすることが親孝行であり、亡くなった方を敬うことにつながるという信念を持っています。

——墓石、石材のコーティングというのは珍しいですね。

◆石材店などがやっている墓石クリーニングは、水洗いだけのと

からこそ墓石・石材のコーティングが広まってほしいです。

——印象に残っている出来事はありますか。

◆横浜に住む女性から依頼を受けたときのことで。当初、女性は「お墓の掃除を業者に任せるなんて」と家族から反対を受けたそうです。でも施工後、女性の母親は「お掃除

を防ぐことができません。まだ認知度は低いですが、ずっと大切に守り続けていくお墓だと涙を流して喜んでくれました。反対していた父親からも感謝され、握手を交わしました。故人への思いがあるからこそ反対していたはずの家族の方々に、認めてもらえたことがうれしかったです。

——お墓に関わる仕事をやる上で、大切にしているのはどんなことですか。

聞いて一言

百聞は一見にしかずというので、墓石コーティングの作業を見

毎日新聞 2020年(令和2年)11月29日(日) 栃木

「墓石を美しくすることが親孝行」

栃木・「種市塗石商会」代表、依頼者の感謝に喜び

種市塗石商会の新田貢司さん = 栃木県野木町佐川野の法得寺で

2020年11月12日午後1時6分、渡辺佳奈子 撮影

◆形は変われど、先祖を敬う気持ちはいつの時代も変わりません。代々受け継がれてきた大切なお墓だからこそ、美しく保ち続けられるように取り組んでいきたいです。

学した。30年以上前に建てられたお墓も、施工後にはひととき目をひくピカピカな姿に生まれ変わった。依頼主が分かるな、と思った。

につた・こうじ 1973年、岩手県野野町(旧種市町)生まれ。県立久慈商業高卒業後、電気工事士に。約20年前に建設会社に入社し、小山市に移住。2018年に

種市塗石商会を起業した。屋号の「種市」は、合併してなくなった古里の名前を残したいという思いからつけた。座右の銘は「不